

とうきょう すくわくプログラム活動報告書②

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の恵みをいただく

<テーマの設定理由>

みかんやジューンベリーや桑の果樹があり、また小さいプランターでも、種まきをして世話をすれば育つ(神様が育ててくださる)ことを知っている。

年長児親子の働きで、さつま芋を植えて収穫し食べる経験、収穫に感謝して捧げられた野菜を様々に調理して食べることや、餅つきをする経験を重ねている。

2. 活動スケジュール

サツマイモの苗を芋畑に植える : 5月中旬、年長児とその保護者たちが、お願いしている芋畑に苗を植えるに行く。合計250株。保護者の協力を得られる年度に芋ほりができる(保護者は楽しみにしており、出来なかったことはない)。これから、天気の条件が許せば、年長児・保育者・保護者も畑に出向き、芋畑のおじさんと協力してサツマイモを育てる。7月に草むしり、9月に蔓返し、10月に全学年での芋ほりを予定している。自宅にも持ち帰るが、幼稚園で焼き芋をしたり、スイートポテトにしたり、週に2~3回は、おやつとしてみんなで食べて楽しむ予定。みんなでどんな風に食べるか?ここが芋ほり後の面白いところ。今年はどうなるか?

花壇の松葉ボタン : 毎年採れる小さなたねを保育者が発芽させ、花壇に子どもたちと植え付けた。花が咲くのを楽しみに待っているがなかなか育たない。

ミカンの収穫 : 長いこと年に数個の収穫であったミカンの樹。一昨年は豊作。昨年是一个も実をつけず。今年花数がとても多いので、豊作が見込まれる。皆で木登りをしたり、脚立に登って収穫をする。

きゅうりの苗を植える、チューリップの球根を植える、スナップエンドウの種をまく : 満三歳児から就学前の5歳児まで4学年が毎日一緒に生活をしている。日々、身近にあるものとして心にとめて生活できるとよい。

収穫感謝 : 各家庭から持ちよった野菜を用いてカレーを作り、ホールで全員で食べる。お馴染みの野菜もあれば、初めて見る野菜や果物もあり、どんな味かなと興味をもって待つ子どもたち。調理の仕方を工夫して、今年も余すところなく感謝していただきたい。

餅つき : 園庭にかまどを作り、一晩水につけたもち米を入れたせいろをのせて、薪をくべてふかす。ふけた米をうすでつき、丸めてあんこ餅と磯辺餅にしてみんなで食べる計画。年長児が頑張る→かまどを掘る。もち米を研ぐ。全園児→公園で焚火の焚き付けに使う乾いた枝を拾い集める。

年長児父親に助けってもらって杵で餅をつく。

年長児母親が丸める。みんなの力で美味しいお餅を食べたい。



3. 探究活動の実践

<活動の内容>

サツマイモの苗250株 薪 きゅうりの苗 松葉ボタンの種 スナッフエンドウの種 チューリップの球根 土 砂糖 塩 醤油 味醂 塩麴 餅米 のり あんこなどの食材 アルミホイル トングなどの調理用品を用意

さつまいも : 年長親子が芋の苗を植え、草むしりをし、蔓返しをし、10月に芋ほりをする事ができた。

今年度の品種は紅あずま。とにかく大きく育ち気分はかぼちゃの収穫のようであった。園で焼き芋にしたりスイートポテトにしたり、3学期末までおやつとしてたくさん楽しんだ。時にはレストランをしている家の子どもがスイートポテト屋になったり、それを知ったお弁当屋の孫がスイートポテト屋に自ら志願したり、それを見ていた・・・と、次々と関わり、年齢を超えて良い経験となった。

1学期に植えたきゅうり : 7月に数回収穫。お弁当の時に子どもたちの目の前で切り、今日は塩。今日はしょうゆとみりん。今日は塩麴と、味をいろいろ楽しみながら食べた。とてもおいしく楽しい時。日頃、母親の作ったもの以外は口にしない子どもや、きゅうりは嫌いだけど自分で食べてみようかと決めて食べる子どもが多かった。自分で決めてうまくいく経験はとても大切。よかった。



松葉ボタン : 「芽が大きくなりね」と、花壇をのぞき込んでいた数名の子どもたちが、松葉ボタンの新芽を食べるダンゴムシを発見！

その後ずめがの幼虫がペンタスの花を食べているところも目撃される！

チューリップの球根 : 満3歳児と年中組の子どもたちが中心となって植え付けた。満3歳児のハチャメチャさには大笑いであった。植える→抜く→逆さまに植える→足で踏んで押し込もうとする、などなど。それでも年中組の真似をして大変喜んで植え付けた。教え、伝えるでも、その後もずっと引っっこ抜き、出た根っこをむしり・・・が続いた。本人は自分が植えたことはとてもうれしくて、お迎えに来た母親に毎日のように球根の場所を嬉しそうに教えている。球根が何たるか、まるで理解が及ばないのだろう。花が咲いたときに、どう感じるのか楽しみなところである。

餅つき : ついた餅と、幼稚園で収穫したさつまいもを混ぜ、こねて、「さつまいも餅」なる、九州の郷土料理を作って食べてみた。自分たちで育て、作ったもので美味しい物を作り食べて幸せな経験が出来た。



ミカンの収穫 : 木登りをして収穫する子ども。脚立に登って収穫する子ども。4学年全員自分の手でみかんを収穫することができた。保育者の手で残りを収穫。鳥がついばむ分は残しておく。

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・年齢による取り組みの差を痛感する時となった。きちんと教え伝えていくこともたくさんあるが、やりながら、時間をかけて、「あーそうか」と実感していくこともとても大切であると考えている。
- ・今年度の種まきに参加していない子どもたちもたくさんいるが、存在は把握しており、遊びながら目にしている。
- ・まるで気が付かない子どももきついているであろう。3年、4年生活する中で、気が付く時があるとよいと願い、声をかけている。
- ・収穫する喜び、食べる楽しみ、きれいな花の美しさ。それぞれの子どもの“気付き”を待ちたい活動である。来年度もたくさんのお気づきを促すように、様々な作物を育てたいと思う。
- ・年長児の活躍はうれしいことであった。自分たちの力で生活をする。この実感を少しでも喜びとして感じてくれていたらよい。そして、この時代の中で保護者の活躍がたくさんあったこともとても良かった。外で働く両親の下で育つことが主流になり始めた中でのコロナの蔓延。世の中の価値観がとても大きく変化した。そんな中でも、可能な限り子どもの生活に入り、一緒に経験を重ねることを望む保護者がたくさんいたことがとてもうれしい。保護者にとって今後の子育てにこの経験が大きな役割を果たすと確信する活動となった。